

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2372201778		
法人名	社会福祉法人 愛知慈恵会		
事業所名	グループホーム田苑 そよ風		
所在地	愛知県一宮市萩原町字蓮原24番地1		
自己評価作成日	平成24年 1月 1日	評価結果市町村受理日	平成24年 7月 9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2372201778&SCD=320&PCD=23
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市長区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	平成24年 1月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・純和風の木造建築である、外観の良い雰囲気を保つよう、清掃や庭の手入れを欠かさず行っている。
 ・入所者や家族の思いを受け止められるよう、コミュニケーションの充実を図っています
 ・入所者の方が楽しみや生きがいを感じるように役割、レクリエーションに力を入れています。
 ・毎月行われる職員会議には、勉強会を行い利用者への理解を深める周辺ケアに努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ゆっくりと流れる時間、ほっとできる空間で管理者・職員は利用者の気持ちに第一を考え、互いに助け合いの心を持ち、ともに生活をしている。訪問調査当日も利用者の表情は実に穏やかで職員と利用者が互いの信頼関係をうかがうことができた。利用者の残存能力を活かし、どの利用者にも活躍の場を提供することで、利用者の生きがいへと繋がっている。また、実施した家族アンケートからも、ホームを応援する声が多く寄せられており、利用者・家族・管理者・職員・地域住民との相互理解と協力を得て更なる支援の充実に期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	【認め合う気持ち・ゆとり・穏やかな生活】	職員ヒアリングの会話の中で、事業所理念が自然に口をついて出てくるほど理念が共有され浸透していることが伺える。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・入所者の重度化に伴い、行事などの参加は難しくなっているが、地域の学生受入れやボランティア(習字・園芸・エレクトーン)として来て頂き交流している。	地域との付き合いも事業所として構えるまでもなく、自然に行っている。また、地域での行事やボランティアの受け入れ等積極的に行うことで事業所の活動の理解を深めている	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・実習生やボランティアの受入を積極的に行っている。 ・買い物や喫茶外出などを交えて地域の方との触れ合いを持つようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・地域住民代表、入所者、家族、行政職員が参加し2ヶ月に1回行っています。 ・事業所の運営、活動報告をしている。 ・会議で出された意見等について話し合いサービスの向上に繋げている。	定期的に運営推進会議を実施し、ホームの活動報告等行い、ホームの活動の理解を深めている。また、参加者から意見・要望等収集しサービスの質の向上に努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	・職員(看護師)が、県の認知症介護実践者リーダーとしての講師も行っており、推進会議の参加だけでなく、市担当者に相談を行う等、日常的に情報交換を行っている。	運営推進会議には市担当者が出席しているため、ホームや利用者の状況を報告して助言や指導を仰いでおり、ホームの運営に活かしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・拘束についての、職員の理解は出来ているが、玄関施錠(エスケープ利用者)、身体拘束を行っている利用者1名がいる。 ・以前は施錠をしていなかった時期もある為、利用者の状況を見極めながらやっていきたい。	法人全体が身体拘束をしないという前提で取り組みを行っており、管理者以下職員は、利用者が安心かつ安全に生活できるように自由な暮らしを支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	・認知症指導者が定期的にワーカー会議の場で勉強会を開き、利用者への対応が適切な物かどうか、を振り返りながら話し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・講義などで、学ぶ事はありますが、実際には家族が行う為、活用には至っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・入所前に、契約書や重要説明事項などの書類をもとに、ゆっくりと話し合う機会を設けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・推進会議、家族会は勿論ですが、面会時にも家族の方と話す機会を設け雑談の中で聞き出した意見等も全職員が共有し態勢を整えられるよう努力している。	利用者・家族の意見・要望の把握には管理者自身が細部にわたる気遣いによって対応しており、運営に反映させるべき点は反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・ワーカー会議議事録内容について代表者(施設長)からは意見をもらっている。 ・事業者会議にて意見を出してもらい話し合っている。	職員に対するヒアリングの結果をみても、意見や提案がスムーズに実行に移されている様子がうかがえる。風通しの良い職場であることが実感できた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・職員個人が代表者と話しやすい環境です。 ・各個人に役割がある事で、やりがいと責任感を感じている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・法人内外の研修には、積極的に参加している。 ・職員が参加したい研修を伝える機会を設けてくれている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・一宮市の施設部会に参加している。 ・『グループホーム強化研修』と題して法人内のグループホームと連携を執り、意見交換を行いながら勉強会や人材育成に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・入所前に、事前見学をして頂き、利用者の気持ちや家族の要望などをゆっくり訊くように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・家族の方には、気持ちを話しやすいように家族時間を設けており(事前見学時などに)その後、利用者ともお話をさせていただいている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・入所判定に時点でケアマネージャー(管理者)・在宅部長・看護師・介護職員など様々な職種で検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・『出来る事』を少しずつ手伝ってもらえるようにしている。その事により一緒に生活しているという気持ちになっていただけるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・家族会や誕生会・面会時には、必ず家族・利用者・職員を交えた共通話題で信頼関係を作っている。また、家族の思いも理解し助言をしていけるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・家族が友人・親戚・近所に自慢でき招待しなくなるような雰囲気作りを目指している。 ・家族の協力の元、家族外出や自宅送迎など行い馴染みの環境に触れ合う機会を設けている。	職員は利用者一人ひとりと何気ない会話の中から思いや希望を引き出し、外出等希望に沿った支援を行っている。また、ホームでは実現が難しいことでも、家族との協力で利用者の様々な要望に応えることができる体制作りにも努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・お互い顔が見える様な座席配置。 ・出きるだけ顔をあわせる時間を作り場を和ませる努力をしている。 ・協働作業やレクリエーションを通じてその人なりを知ってもらう機会を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・特養に移行された利用者家族と会う機会も多い為、よくお話をします。相談や悩みなど話していただく事もある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・日常会話や暮らしの中から、何を望んでいるのか汲み取れるように努め、実践に向けてワーカー会議などで話し合っている。	日々の何気ない言葉から、利用者の希望・要望の把握に努め、実施に向け努めている。また、温かみのある日常支援を行い利用者の尊厳を大切にしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・入居時に情報収集に努めている。 ・家族記入のフェイスシートを全職員が把握し入居後の新情報(気づき)も発見、追加している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・毎日の暮らしの中での、ちょっとした変化(表情、態度)や空気感の違いを感じ、その変化の違いを他の職員にも伝え合っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・担当者会議での話し合い、面会時の家族の思い 職員間の感じる事など多くの意見を取り入れられるよう心がけている。	定期的に行われるモニタリングにより介護方針が検討されており、利用者の状態が変化した時にはその都度介護計画が検討され、常に適切な支援が提供できるよう努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・申し送り、介護記録、ミーティングノート、業務日誌での情報共有を図りながら行っている。 ・記録の様式も検討し変えながら行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・本人・家族からの意見・要望に応じてできる限りの支援の実践している。 (個別外出・個別メンタル支援など)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・音楽療法や園芸療法、習字ボランティアの積極的な受入を行っている。 ・買い物や喫茶外出など地域へ外出するようになっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科・精神科は定期的な往診があり、良い関係で医療を受けている。	協力医による2週間に1度の往診による定期健康診断を実施しており、おおむねこの範囲内で処置出来ている。特に本人の希望によるかかりつけ医の受診に対しては個別に支援を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・24時間オンコール看護体制であるため、常に利用者の変化を把握してもらえ、指示を仰ぐ事が可能である。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・管理者が連携に努め、その情報をワーカー職員に伝えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・入居時には、意思確認を行う。 ・現在は看取り介護も実施予定であり、家族様にも説明や内容確認を折りに触れ話し合っている。	ホームとしては、利用者(及び家族)の意見・要望を最大限に尊重する方針で臨んでいる。終末期を迎えた場合の対処方についても、職員各自覚悟のもとに従事する姿勢で臨んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・職場内での話し合いや勉強会を行っている。 ・急変時の対応については、重度化に伴いよく話し合っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・年2回の避難訓練実施。 ・近隣施設と連携を定期的確認している。	併設の施設全体で消防災害訓練計画に基づき、消火器訓練や避難訓練を行っている。消防署立会の総合訓練を実施し、非常災害時には利用者を迅速に避難誘導することができるように努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉遣いや個人の人格などを考え、対応するようにしている。 ・スピーチロックなどの勉強会をしたり自尊心に配慮したケアにあたるよう会議で話し合ったりしている。 	個性の違いを十分に認識して、誇りやプライバシーを損ねないように対応している。個々人が反応しやすい呼称、声の大きさ、目線などに気をつけて、さりげないケアを心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	<ul style="list-style-type: none"> ・強制や決め付けはせず利用者を選んで頂けるよう心がけている。 ・常にコミュニケーションを図ることにより本人の意思や希望が分かるように観察に努めている。 		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・一日の流れとしては、決まっているが、利用者のペースに合わせた声かけ・誘導を行っている。 ・出きるだけ本人の希望も訊きいれるよう努めている。 		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・季節に合った洋服のみを揃えておき、できるだけ自分でできるようにしている。 ・移動美容や洋服の買い物など、本人の好みを話せるようにしている。 		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	<ul style="list-style-type: none"> ・メニュー選び・食材の買出し・片付け・簡単調理支度など一緒に行く。(料理は職員が行っている) ・手作りオヤツを取り入れるようにしている。 	利用者の個々の能力を活かし、食事の準備・後片付け等職員と一緒にしている。また、誕生会には利用者の好みを取り入れることで、「食」を楽しむ事が出来るように支援を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・食事形態の工夫(刻み・ミキサー) ・水分摂取を促す(茶カンテン・ポカリゼリー) ・食事チェック表を用い食事量の確認 ・ラコール摂取など補助的な栄養確保 		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	<ul style="list-style-type: none"> ・毎食後準備や声かけ、実施など個人に合わせたケアを行なっている。 		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・時間やタイミングを見ながら、(トイレでの排泄ができるよう)誘導・支援をしている。 ・排泄チェック表を使用し排泄行動サインを見逃さないようにしている。	利用者の排泄パターンを把握し、さりげない声かけを行なっている。また、夜間もタイミングを見計らって排泄を促し、出来るだけトイレでの排泄ができるよう努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・一日の水分量・食事量・運動量を把握し、水分摂取やレクリエーション体操を工夫している。 ・医師との相談のうえ整腸剤や下剤の処方をしてもらっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	・入浴開始時間は殆ど決まっているが、湯船にゆっくり浸かってもらえるよう支援している。	入浴は利用者の希望に応じて柔軟に対応している。入浴の可否については体調を勘案しその都度確認したうえで決定している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・各自の居室にて好きな時にくつろいだり、休んでもらっている。(空調管理を行い快適な温度で過ごしてもらっている) ・眠れない時には、話を聞くようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・職員間で内容を共有している。 変更時には記録・申し送りを行っている。 ・(薬箱に内容書きを明記してある)		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・どんな時に一番輝いているかなど職員間で情報の共有に努め買い物・喫茶外出・ドライブなど計画、実行している。また、家族の協力もあり自宅外出も行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・日常的に希望に添うことは難しいが、家族との相談の上、計画・実施している。	日常的に外出できる機会を設け、事業所に閉じこもることのないように努めている。天候の良い日には散歩に出掛けている。また、本人の状況等に応じて、希望に沿った個別の外出支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・基本的には管理者が管理している。 ・ご家族の了解のある方は所持していただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・公衆電話は無いが、希望のある方には電話を使用してもらっている。 ・手紙はレクリエーションとして、季節の挨拶状を出している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・季節に合った園芸・庭の手入れを行っている。(園芸担当を決めて行っている) ・清掃は、大型犬(アニマルセラピー犬)を室内で飼っている為、臭い、衛生面には特に気を遣い一日3回の清掃を行っている。	共有空間には様々な工夫をしており、利用者個々にお気に入りの場所がある。訪問調査当日も利用者が共有空間で穏やかな表情で過ごしていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・食堂以外に玄関・廊下などにソファや椅子があり好きな場所でくつろぐ事ができる。 ・中庭には、各自で育てている植物・盆栽があり楽しみながら庭を眺め、お話されている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・入居時に本人が使い慣れた家具などを持ち込み使用してもらっている。 ・本人が一番使いやすく落ち着ける環境を探り家族と相談しながら模様替えを行っている。	利用者が安らぎを得ることが出来るように、馴染みの物、思い出の品が持ち込まれている。利用者によって使い慣れた物品を配置し、利用者の居心地のさに配慮した支援を行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・安全第一に考え、居室やトイレの場所などに、名前を書いたり暖簾を飾り 分かるように工夫している。 ・利用者同士が教え合う良い関係が出来ている。		

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	49	個別外出を計画・実行しているが、利用者のADL低下進行により家族の協力や本人の希望が減ってきている。 (外出後に体調不良になる事がある為)	今までは、入居者一人あたり、年2回以上の外出目標であったが、一人ひとりの状態に合わせた目標にしていきたい。	今までのように個別外出を行っていくが、外出回数や内容にこだわらずに本人の体調や気持ちを汲み取り、一人ひとりにあった外出時間と回数を検討していきたい。	12ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。